



# 学校の宝“對山心靜”

今日の校長講話は、中塩田小学校の宝についてお話しします。中塩田小学校の宝は、もちろん今この話をしっかり聞いてくれている皆さんですが、今日はもう一つほかの宝を紹介します。

ことをお話しします。昨年までいた人には“盈進”についてお話ししましたね。今日は、ある額についてです。

さて、みなさん、この文字の書かれている額を見たことがありますか？クイズです。これはどこにあるでしょう。3択です。

- ①校長室 ②体育館 ③職員室 正解は  
② 体育館です。見たことはあると思います。



ここには、昔の字で書かれていますが、今の字に直すと「對 山 心 靜」と書いてあります。

これはどんな意味なのでしょう。「山に対し、心靜かなり」と読みます。意味は、哀しい時、寂しい時、迷ったときに山々をじっと見つめていると心が澄んで、それらの思いが自然と解けてくるという意味だそうです。

山に囲まれた長野県ですが、この塩田も校歌にでてくる独鈷山をはじめ山々に囲まれています。いろんなことがあっても山を見つめて、心を落ち着かせ、くよくよしないで頑張ろうという気持ちになろう！ということでしょうか。

では、この額の文字は誰が書いたのでしょうか。時代は昭和30年、今から67～8年前になります。修学旅行で行った東京ドームシティの前身、後樂園遊園地ができたり、三種の神器（洗濯機、冷蔵庫、テレビ）が普及したりした頃です。まだ東京タワーも出来ていません。

三択です。

- ①湯川秀樹 ②宮沢賢治 ③手塚治虫

正解は、①番の湯川秀樹先生です。全校の皆さんの中で、この湯川秀樹さんを知っている人はいますか？ 知っている人はクラスで、どんな人か言

ってあげてください。

知っている人は、全校で4人?でしたか? 一方通行なのでわかりませんが、本にもなっているこの湯川秀樹先生は、日本人で一番初めにノーベル賞を受賞した先生です。ノーベル物理学賞という賞です。研究の中身は皆さんにはかなり難しいですが、原子核というものをつないでいるのが中間子というものであることを発見した人です。昭和24年、日本が戦争に負けて復興に向かっているときに、国民に勇気を与える大きな賞の受賞でした。



さて、どうして中塩田小にこの湯川秀樹先生の文字が掲げられてるかという、その当時、今の北校舎当たりのところに木造の講堂が建てられました。その当時としては最大規模の木造建築で、この行動の新築記念として、中塩田村議会の議員さん 21 名が湯川秀樹先生にお願いして、議員さん方からの寄贈として行動の正面に掲げられたそうです。

そして、なぜこの議員さん方と、湯川秀樹先生が結びついたかという、そこには中塩田村出身の中山泰久さんという当時 30 歳の青年、湯川秀樹先生のお弟子さんが橋渡しをしてくださったそうです。この中山さんも「第二の湯川」と呼ばれていたそうです。

きっと、この中塩田小から世界に羽ばたく人に巣立ちますように という議員さんの熱い思いや、湯川先生の 自然の中で心落ち着かせ、自分を見つめなおし、すくすくと成長してくださいというメッセージが込められているのかもしれないね。

ひょっとしたら、70歳代後半の中塩田小出身のおじいさんおばあさんだったら知っているかもしれません。

この中塩田小学校に「日本人初ノーベル賞受賞者 湯川秀樹先生直筆の額」があるってことは、本当にすごいことですね。まさに、学校の宝です。

この湯川秀樹先生は「一日を生きることは 一歩進むことであれ」という言葉をよく口ずさんでいたようです。たとえ歩幅は狭くても、日々一歩でも先に進みたいという湯川先生の前向きな姿勢がよく伝わってきます。



私たちも、この学校の宝に見守られ、山を見ながら日々一歩ずつ成長していきましょう。

今日は学校の宝 についてお話ししました。